

都市再生整備計画 事後評価シート

三山木地区

平成24年12月

京都府京田辺市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	京都府	市町村名	京田辺市	地区名	三山木地区(みやまきちく)			面積	31.3ha
交付期間	平成21年度～24年度	事後評価実施時期	平成24年度	交付対象事業費	798.1百万円	国費率	0.400		

1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	事業名		
		提案事業	道路(南田辺三山木駅前線、南田辺三山木駅前線(排水溝設置・歩道舗装)、公園(4号公園、都市広場)、地域生活基盤施設(備蓄倉庫)、高質空間形成施設(ベンチ、ILB舗装)、土地区画整理事業(三山木地区)		
	当初計画から削除した事業	基幹事業	耐震性防火水槽(区域内公園(4号公園))、都市下水路支川整備(区域西端(1号、2号))	削除/追加の理由	
		提案事業	①公園(2号公園) ②地域生活基盤施設(自転車駐車場)、高質空間形成施設(公衆トイレ)	①土地区画整理事業の進捗を考慮し、削除 ②他事業で実施するため、削除	①、②:指標に関連するが、指標及び数値目標は据え置く
	新たに追加した事業	基幹事業	①土地利用勉強会、放置自転車保管所、南部地域土地利用検討会 ②防犯照明灯設置	①他事業で実施するため、削除 ②関連事業で実施するため、削除	①、②:指標に関連するが、指標及び数値目標は据え置く
		提案事業	—	—	—
交付期間の変更		当 初	平成21年度～24年度	交付期間の変更による事業、指標、計画目標への影響	—

の変更	変更	一	指標、数値目標への影響						目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因 (総合所見)	フォローアップ 予定期				
			指標		単位	従前値		目標値				モニタリング	評価値			
			基準年度	目標年度												
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標1	居住人口	人	2,080	H20	2,440	H24	—	2,430	△	あり ●	土地区画整理事業による基盤整備が要因となり、集合住宅等が増加したことで居住人口が増加した。また、道路・公園整備による居住環境の向上、高質空間形成施設の整備によるまちの付加価値向上及び耐震性防火水槽等の整備による災害に対する安全性向上などが定住化の促進に繋がっている。フォローアップ時点では土地区画整理事業の使用収益開始が進捗しているため、更なる増加が見込まれる。	平成26年4月			
	指標2	地区内の店舗数	店	30	H20	40	H24	—	59	○	あり ●	土地区画整理事業による基盤整備により、店舗等の建築が促進され、地区内の店舗数が増加した。また、道路整備や三木山駅前周辺の整備による魅力的な空間が形成され、新規店舗の進出に繋がっている。更に居住人口が増えたことによる商業施設等の店舗需要が増加したことでも店舗数が増加した要因となっている。	平成26年4月			
	指標3	住民満足度	%	49.6	H20	63.0	H24	—	59.5	△	あり ●	土地区画整理事業による基盤整備、道路・公園整備により居住環境が向上し、また、ILB舗装による高質な空間が形成されたため、住民満足度(生活環境)が向上した。また、備蓄倉庫・都市下水路整備による安全な都市基盤が形成されたことも、生活環境の向上に繋がっている。更に今後も引き続き、土地区画整理事業を実施することから、更なる生活環境の向上が見込まれる。	平成26年10月			

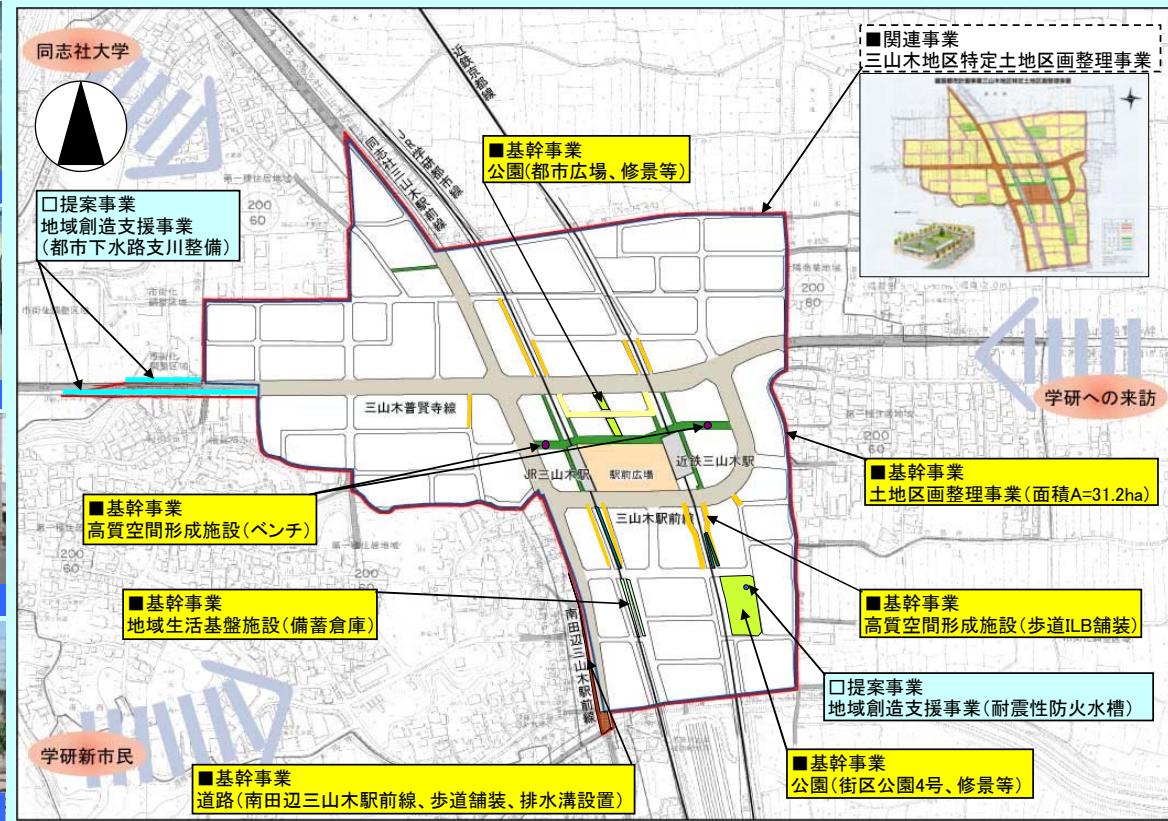
3)その他の数値指標 (当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		従前値	目標値	数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因 (総合所見)	フォローアップ 予定期間
	単位	基準年度	目標年度	モニタリング	評価値					
	その他の数値指標1	歩行に対する不満足度	%	37.0	H20	—	23.8	△	△	都市計画道路等における歩車分離の道路整備、都市広場・歩行者専用道路におけるILB舗装による歩行空間の快適性向上などにより、歩行に対する不満足度が低下した。
その他の数値指標2	公共空地整備率 (公園・広場等)	%	67.1	H20	—	87.3	△	△	公園や都市広場の整備により、公共空地の整備率が向上したとともに、歩行空間の整備が公共空地の活用に繋がっている。また、公共空地を活用したイベント等も開催され、公共空地の整備がアメニティ空間の形成に繋がっている。	平成26年4月

4) 定的な効果 発現状況	<p>・土地区画整理事業の施行がきっかけとなり、同志社大学の学生が自主的に三山木地区におけるまちづくりを検討し、「第3回全国まちづくり政策フォーラムin京田辺」(H21)にて最優秀賞を受賞した。また、そのまちづくり政策について、三山木地区の住民と意見交換が実施されたため、今後、住民と学生が協働でまちづくりを検討する機運が高まっていることから、持続的なまちづくり組織設立の期待が高まった。</p> <p>・公共空地の整備により、各自治会が開催するイベント(お祭り等)の会場となり、コミュニティ活動の活発化に寄与している。</p> <p>・三山木駅前周辺の整備及び居住人口増加により、JR・近鉄三山木駅及び三山木駅のバス停留所における利用者が平成18年度より年々増加し、約10年前の水準に回復しつつあるので、地区内の住民だけではなく、周辺地域の住民も利用しているところとされ、事業の効果が周辺地域に波及していると看えられる。</p>
------------------	---

5)実施過程の評価	実施内容			実施状況			今後の対応方針等		
	モニタリング	-		都市再生整備計画に記載し、実施できた		-			
				都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した					
				都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった					
	住民参加プロセス	-		都市再生整備計画に記載し、実施できた		-			
				都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した					
				都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった					
	持続的なまちづくり体制の構築	-		都市再生整備計画に記載し、実施できた		-			
				都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した					
				都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった					

様式2-2 地区の概要

三山木地区(京都府京田辺市) 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標		目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値			
大目標: 関西文化学術研究都市の北の玄関口にふさわしい風格と先進性を備えた新しい都市拠点の形成		居住人口	単位:人	2,080	H20	2,440	H24	2,430	H24		
目標1: 交通拠点としての機能の向上を目指し、地域間の交流・連携の促進を図り、都市の賑わいを創出する。		地区内の店舗数	単位:人	30	H20	40	H24	59	H24		
目標2: 調和のとれた個性的な景観を形成し、生活・交流拠点としての新しい顔を創出することにより、都市拠点としての商業機能の集積を図る。		住民満足度	単位:人	49.6	H20	63.0	H24	59.5	H24		
目標3: 高齢者や障害者も含めた誰もが安全・安心に利用できる生活・活動拠点の形成を目指す。		歩行に対する不満足度	単位:人	37.0	H20			23.8	H24		
目標4: 同志社大学が立地する特性を活用し、学生や住民が集う賑わいのある駅前空間を創出する。		公共空地整備率(公園・広場等)	単位:人	67.1	H20			87.3	H24		
 都市下水路		 ベンチ		 ■基幹事業 公園(都市広場、修景等) ■基幹事業 土地区画整理事業(面積A=31.2ha) ■基幹事業 高質空間形成施設(ベンチ) ■基幹事業 地域生活基盤施設(備蓄倉庫) ■基幹事業 高質空間形成施設(歩道ILB舗装) ■基幹事業 公園(街区公園4号、修景等) ■基幹事業 道路(南田辺三山木駅前線、歩道舗装、排水溝設置)		 都市広場		 歩道ILB舗装		 耐震性防水槽の整備イメージ	
まちの課題の変化 <ul style="list-style-type: none"> 課題の改善状況: ①都市計画道路等の整備完了・供用開始により今後の交流人口増加の一助となった。②車道・歩道のフラット化、街区公園等の整備による賑わい空間の創出及び防災機能向上が図られたことで、若年者から高齢者までが安心して暮らすことのできる居住環境が整った。③業務・商業施設などが立地されたことにより、生活利便性が向上し、都市再生整備計画事業の波及効果が当地区及び地区周辺の居住人口増加に繋がった。④公共空地(公園・広場等)を活用したイベント(お祭り等)が開催され、また、同志社大学の学生が検討したまちづくり政策を発表し、住民との意見交換会が実施された。 未解決の課題: ①三山木駅及び駅周辺の業務・商業施設へのアクセス性向上を図るための交通環境整備。②住宅地等の区画道路における街路灯・防犯灯の設置促進。③生活支援施設等の導入検討。④土地区画整理事業完了後のまちづくりを持続的に実施する組織がない。 		今後のまちづくりの方策(改善策を含む) <ul style="list-style-type: none"> 効果を持続させるための方策: ①地区外における都市計画道路の整備促進。②未整備となっている防災機能を有する公園の整備促進。③土地区画整理事業区域内の使用収益開始の促進。④公共空地(公園・広場等)における利活用方法のPR活動。 改善策: ①多面向に対応可能な交通環境整備の検討。②生活道路等における夜間の歩行安全性向上。③生活支援施設導入の検討。④まちの運営・管理を自主的に実施するまちづくり組織の設立に対する支援の検討。 		 4号公園イメージパース							